

福井大学学術交流協定校への派遣留学（交換留学）月例報告書（9月分）

マラヤ大学（マレーシア）

国際地域学部 3年 安江 詠星

〈目次〉

- ・はじめに
- ・マレーシアについて
- ・マラヤ大学のキャンパスについて
- ・寮について
- ・トイレとシャワーについて
- ・観光三昧だった2週間
- ・日本文化イベントに参加しました
- ・終わりに

・はじめに

こんにちは、国際地域学部三年の安江詠星といたします。2018年の8月27日からマレーシアの首都、クアラルンプールにあるマラヤ大学に留学しており、来年の7月の半ばまで滞在する予定です。この報告書では自分の活動したことや学んだことだけでなく、今後マラヤ大学に留学するかもしれない人たちに向けて出来るだけわかりやすくマレーシアや大学の情報を紹介できればと思います。初めての報告書ということもあり、今回はマレーシアの国の情報やマラヤ大学での生活から書いていこうと思います。

・マレーシアについて

観光地として大人気のマレーシアですが、ここで簡単にマレーシアについて紹介したいと思います。僕が今留学しているマレーシアは東南アジアに位置する国で日本から飛行機で約6時間の距離にあります。西に位置するマレー半島側と海を越えて反対側のボルネオ島側に分かれており、マラヤ大学のあるクアラルンプールはマレー半島側に位置しています。マレーシアの特徴としては、他の東南アジアの国々同様、経済発展の真っ只中であること、マレー系、中華系、インド系が共存する多民族国家であること、イスラム教の文化圏であることが挙げられます。公用語はマレー語ですがクアラルンプールや観光地であれば英語も通じ、中国語の話者もかなり多い印象です。中華系の人々が全人口の2割ほどを占めているのも理由かもしれませんが、それ以上にマレー系の学生でも中国語を話す人が多いです。マレーシアの言語事情や多民族社会についてはいずれもう少し詳しく調べたあと深く掘り下げたいと思います。気温は熱帯雨林気候に属していることもあり、年中通して夏のような感じです。しかし日本の夏より気温は低いので過ごしやすいと思います。また、毎日スコールがあるので折りたたみ傘は必須です。

・マラヤ大学のキャンパスについて

次に自分が留学しているマラヤ大学について書こうと思います。学校自体はクアラルンプールの中心に位置しているのですが、もともと山を開拓して作られたということもあり、キャンパス内で豊かな自然を見ることが出来ます。キャンパスの半分くらいは森で、かなり広いです。特に自分たちが住んでいる寮と講義を受ける学部棟のエリアはかなり離れており、バスでの移動が推奨されています。歩いて



行くことも可能ですが 25 分ほど山道を歩くことになり、通称下山（寮→学部エリア、逆は通称ハイキング・写真参照）と呼ばれています。自分がとっている授業の学部棟やよく利用している図書館の間の移動は歩いて行ける距離です。また、大学の外に出るのもバスを利用することが推奨されています。校門の前の道は交通量もかなり多く、場所によっては歩道がないので危険なためです。一部の日本人学生の間では徒歩で大学からの脱出を試みる人たちもいましたが、徒歩で寮から門を出て近くの駅に行くまでに 40～50 分ほど掛かるようです。ちなみに学部棟のエリアから門までも 15 分ほどかかります。僕はいつも 1 回あたり 27 円のバスを使って大学の外に出ています（寮からなら無料の学内周回バスからの乗り換えが必要。乗り換えの待ち時間は不明。）一見するとかなり不便な交通事情に思われますが、というか実際不便なのですが、1 ヶ月もすると留学生の間でもこのマラヤ大学の広さや外に出ることの不便さが逆にネタとして扱われてきており、また読書やスマホで暇つぶしをするコツも分かってきたので、徐々にこの環境に慣れてきたと思います。ちなみに休日となるとそもそも学内周回のバスはなく、また民間の別のバスを使わなければならないのですが、待ち時間と乗り換えの手間を考えると。配車アプリの Grab で車を呼んだ方が遥かに早く便利であり、自分はよくそれを使います。

・寮について

次に自分が住んでいる寮について話そうと思います。僕が今いる寮はマラヤ大学内にある 12 個あるうちの 10 番目の寮、通称 kk10 というところに住んでいます。短期留学生は大抵の場合学外にある International House という場所を使うのですが、多くの交換留学生は kk10 に住んでいます。そのなかでも 4 つ棟があり、基本的に男女で分かれています。僕がいる棟だけは階ごとに男女で分かれており、また比較的新しく綺麗な棟で他の棟より少しだけ費用が高いです。家賃は日本円で 16000 円と福井大学の寮よりは高いですが、キャンパス外に住むよりは遥かに安いです。綺麗ですが部屋には冷房が無く

二人部屋で、短期留学の生徒が来たりしてルームメイトが3度変わり、今は中国から来た人と住んでいます。英語と日本語が少し話せるイケメンです。部屋によっては、冷房がある部屋と無い部屋があったり、一人部屋もあったりしますがそれらの部屋は費用が高くなるようです。ちなみに棟や部屋の選択肢は入寮の際の来た順番によるようで、半分運です。またルームメイトとの相性も運だと思います。出発する前に、その選択肢があることも知らず、冷房が無いと聞いて最初は死ぬなと思い、日本からミニ扇風機を購入し持ってきましたが、夜は涼しく天井にファンもついているので冷房がなくても快適に過ごせています。

(写真・部屋の様子、寮内にいるネコとサル。ネコはいつもご飯を食べているとねだってきます。)



・トイレとシャワーについて

寮生活を語る上でこれを避けることはできません。こちらに来て最初の試練であり、一番に乗り越えるべき異文化学習です。来て最初は不安なこともあり、ホームシックになりかけることもありましたがその中でこれを乗り越えることが第一段階です。まず、ユニットバスというものを想像してください。トイレとシャワーが一緒になっている、ビジネスホテルとか一人暮らしアパートによくあるアレです。狭いながらもトイレと風呂とシャワーを一緒にすることでスペースを有効活用していますよね。マラヤ大学の寮の場合、個室にトイレとシャワーは無く、一部例外を除き全てのシャワーとトイレが共用で一緒になっています。そしてこの「一緒」というのがポイントです。「なんだ、共用ユニットバスみたいなものか」もしかしたらそう思うかもしれませんが、しかし決定的な違いが1つあります、それはユニットバスが「風呂という空間にトイレが付いている」のに対してマラヤ大学の寮は「トイレという空間にシャワーが付いている」のです。これを到着1日目の夜に見たときにどう捉えるかによってその後のモチベーションが変わります。ユニットバスなんて清潔感溢れたものではありません。高校のトイレみたいなものです。ちなみに僕は「まあこんなもんか、洋式なだけマシだしビーチサンダル買えばなんとかなるだろう」と捉えることで乗り越えました。こちらでできた僕の友達ト

イレ後に汚れた部分を洗うホースをシャワーと間違えたり、よく機械が壊れてお湯が出なかったり多少の混乱はありましたが今となっては「トイレの個室がシャワールーム」という概念は完全に普遍的なものとなりました。次にトイレ事情について、少し汚い話かもしれませんが、現実を伝えてそれを乗り越えてこそその留学だと思うので書いていこうと思います。まず、有名な話ですがマレーシアにはトイレットペーパーを常備するといった考えはあまりありません。しかも現地の方は、トイレ後はホースから出る水で洗うそうです。いったいどうやってあの狭い個室で服を濡らさずに体を清めることができるのかは摩訶不思議ですが、さすがにそれをするにはある程度のテクニックが必要だと思うので、自分でポケットティッシュかトイレットペーパーを常に持ち歩く必要があります。日本の習慣と違うので人によってはかなりのストレスになるかもしれませんが「まあそんなもんなんだな」と割り切ることが大切です。高級モールかホテルに行けばウォシュレットやトイレットペーパーはあるかもしれませんが、マラヤ大学全般をはじめ大抵はありませんし紙も流せません。使用後はゴミ箱に捨てましょう。ここまで書くとマレーシアのトイレは汚いと思うかもしれませんが、実際には使用されるたびにホースで床を洗っていることになるので捉えようによっては常に清潔であるとも言えます。要は捉え方次第です。捉え方を変えることで異物感は普遍的な物へと変わります。写真欲しい人は連絡ください。

・観光三昧だった 2 週間

マレーシアに来てから 2 週間はほぼ休日の連続でした。履修登録やビザ申請やその他事務作業など、やることは多かったのですが 1 度提出物を揃えてしまえば後は休日になり、実質 2 週間の連休だったのでひたすら観光に行きました。どのくらい観光をしたのかというと、「クアラルンプール周辺の観光スポット 15 選」というウェブサイトのリストのうち 14 カ所に行ったくらいです。有名なモスクや寺院は制覇し、残るは有名なツインタワーの展望台だけなので近々行きたいと思います。また、クアラルンプール外やローカルな景色が綺麗な場所や博物館美術館はまだ行ってないところも多いのでそちらも行きたいと思っています。

(写真：左からバトゥ洞窟、ピンクモスク、ペトロナスツインタワー。来て 2 週間は留学生達と観光に行っていました)



・ 日本文化のイベントに参加しました。

自分はこちらに来てから知ったのですが、マレーシアには現地の大学の正規留学生を中心とした学生コミュニティ、JSAM 日本人学生会というものがあります。現地の日本人の留学生に向けたインターンやアルバイトの情報やイベント企画を行っている団体です。今回、マラヤ大で知り合った別の日本人学生が、所属している NPO の宣伝も兼ねて、この団体が主催する日本文化イベントに参加するということで、自分もお手伝いとして参加することとなりました。AkiFest と呼ばれるこのイベントは日本の文化祭のようなイベントで、マラヤ大学ではなくテイラーズ大学という別の私立大学で行われました。たこ焼きや焼きそばなどの日本の食べ物やヨーヨー釣りや射的などのお祭り屋台を出店していました。その中で自分はおにぎりを販売し、パンフレット配布や呼び込みなどの仕事をしていました。チラシ配りのバイトの経験は活かされたのかはわかりませんが、最初に完売することができました。日本人学生や家族連れの姿もよく見られたので改めて現地の日本人の多さに気づきました。マレーシアには日本語での情報サイトやフリーペーパーが多くあるのでこういったイベントの情報は共有されているようです。イベントを通してマレーシアの他の大学の人たちとも知り合いになれたので良かったです。



・ おわりに

以上が一回目の報告書となります。マレーシアに来た当初は寮やキャンパスの不便さや文化の違い（あらゆることでひたすら待たされるなど、）自分の英語力の低さなど本当に試練の連続でしたが、毎回どう対処するかを冷静に考え、捉え方を変えて自分を適応させることで乗り越えました。その後授業がはじまり、今現在さらに試練の連続なのですが来月の報告書で詳しく書きたいと思います。もしかするとこの報告書を見てマレー

シアって大変なところだな、つらそうだなって思うかもしれませんが、試練以上に楽しいことももちろんたくさんあり、多くの学びがあります。また日本製品も買いやすく日本食レストランもかなりあり、その気になれば日本とほぼ同じ生活スタイルで過ごすこともできます。心の避難所はちゃんとあるけど根本には異文化や異なる生活スタイルがあり、様々な経験が出来る場所だと思っていただければありがたいです。今回は生活中心でしたが次回からは学びの部分も報告していこうと思います。

